

連載...

No. 7

モンテッソーリ教育ってなあに?

2012年11月

この年齢の子どもたちは、数えること自体が楽しく、大人なら見ただけで面倒に思ってしまうような事でも、楽しくてたのしくて時間を忘れてしまうほど熱中します。

数えたくて仕方がない「数の敏感期」にいる子どもに遊びながら楽しく数えることのできる具体的な教具が数教育といえます。

それは、ただ、教えこまれるということではなく、**見て 触る**をくり返す事で体の中に筋肉記憶されます。

モンテッソーリの数の学習は、抽象を教具という具体物を通すことによって、実際に目で見て触って確かめられるよう工夫されています。

清心幼稚園のお部屋の中にもたくさんの数教具があります。

その中からいくつかご紹介しましょう!!

赤と青と数棒 ☆適応年齢⇒3歳半～4歳ぐらい

※赤い棒（感覚教具）の活動をおえた子

<紹介①>

- ① じゅうたんにばらばらにならべた数棒を、赤い棒と同じように最長より順次、奥から手前へと左端に赤が来るように並べる。
- ② 3本ずつ 3段階の名称レッスンをする。
(1段階)「これはいくつか1の棒で数えてみるよ」と1の棒で数える。
(2段階)「1(2・3)はどれですか?」と教師がたずね、1の棒で数え、見つけてもらう。



- (3段階) 棒を一本ずつとり出し、「これはいくつ?」ときく。
※他の棒も同様に行う。
※毎回1から数えることによって1から10までの数詞と数の序列(順番)を定着させる。

他にも、数棒とカードを一致させたり、10(9と1、8と2、7と3、6と4、5と5(赤棒の5))をたくさん作ったりなど様々な活動ができます。



その棒が表す数を数え、数字のカードを置いていきます。

つむ棒箱

☆適応年齢⇒4～5歳

※赤と青の数棒と数字カードの活動をおえた子
<紹介方法>

① 数字の確認

1～9までの数字を指差し、読む。

② 数字に合う数の棒を入れる。

最後につむ棒が余ったり、逆に足りなくなったりすれば、どこかで自分が間違えていることに気づくよう工夫されています。

棒を全部入れてから0を指し、「全部きちんと入れたからここ(ゼロの場所)何もいね。何もいねことを0っていうんだよ」と何もいねこと=0(ゼロ)であることを伝えます。

他にも輪ゴムで束ねることで数の集合も理解できます。



数字と玉

☆適応年齢⇒4歳半～5歳

※つむ棒箱の活動をおえた子

<紹介方法>

① 数字を正しく並べる⇒

1 2 3 4

切り抜き数字なので、裏返したら鏡文字になる。⇒

ε

並べたあと数字のカードを自分で数字の下に置くので間違いに自分で気づく⇒

1 2 ε 4
□ □ □ □

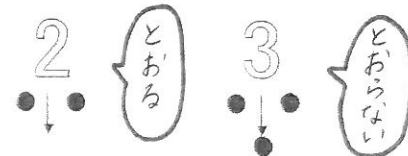
② 数字に合う玉を並べる⇒

1 2 3 4

● ● ● ●

③ 指を通す

(例えば) 偶数の場合、玉と玉の間を指が通ります。
奇数の場合、玉と玉の間を指が通りません。



2
↓

とある

3
↓

とある

